



## 学生の皆さんへ

### —学長からのメッセージ—

近頃、人間についての重大な出来事がよいこと悪いこと織り交ぜて次々と報道されている。ヒトゲノムの全解析、ヒトクローン誕生、新型肺炎(SARS)の発生等々である。ヒトゲノムの全解析はこれからの遺伝子解析への足がかりを与え、多くの病気の治療という実用面への期待は勿論であるが、人間理解の第一歩としてこれからどのように発展させていくか、人知が試されているといえるだろう。ヒトクローンの誕生は40億年に及ぶ歴史をもつ人類の存在についての問題提起であって、より以上に人類の良識が問われるものである。どのような病気でも、罹る人と罹らない人がいるし、罹っても治る人と治らない人がいる。SARSでも同様である。当たり前のようにだが重要なことである。これは遺伝子によることもあるだろうが、それよりも日頃からの栄養によることも多いのではないだろうか。単純に栄養がよい悪いというより、栄養によって、免疫力がよりよく保持されているかどうかということがあるのではないだろうか。大いに興味のあるところである。人間栄養学科は二年目に入り、この学科名のとおり、人間を栄養の面から理解することがいかに重要であるかが明らかな時代になり、学生の皆さんの学習目標も明瞭になってきたと思う。学習の意義を念頭に努力していきましょう。



学長 岸田 嘉一

た。新入生の為にすべて手作りの料理を用意しました。メニューは、ドライカレー、野菜サラダ、ラッシー、果物でした。1ヶ月前から試作をし、トッピングにもいろいろ工夫をしました。前日は材料の下ごしらえや会場の飾り付けで大変でした。当日も料理が間に合わなかったりして慌てましたが、新入生だけでなく先生方にも喜んでいただいたので嬉しく思いました。私達が大学に入って初めての後輩なので、仲良く大学生生活を送っていきたいと思います。

(現代生活学部人間栄養学科2年・片山 佳美)



### —2年生の先輩方との昼食会について—

4月4日の午後から私たちは2年生の先輩たちが企画してくださった、昼食会へいきました。部屋は既ににぎやかでドライカレーの香ばしい匂いが立ち込めていました。私は(たぶん、ほかの1年生も)初めて先輩たちと顔を合わすということに緊張していました。しかし、『いただきま〜す!』の合図と同時に私の向かいに座っていた先輩が、同じテーブルに座っていた1年生にやさしく話し掛けてくれたことで緊張もふっとびました。食事はたった20~30分でしたが、その間私たちは先輩に質問したり、または質問されたりとさまざまな会話を交わしました。さらにそれまで話した事なかった同級生とも色々な話をしました。この昼食会を通して、私たち先輩たちだけでなく新入生間の親睦も大いに深まったと思います。来年は私たちが新入生のためにこのような食事会をしてあげられたらな、と思います。料理はとても美味しく、楽しくためになった昼食会でした。

(現代生活学部人間栄養学科1年・服部 拓也)



## 入学宣誓式

4月2日、中国学園大学の入学宣誓式が、本学園音楽ホールにおいて挙行政され、第2期生が誕生しました。当日は、希望に胸を膨らませている新入生をはじめ、慶びの列席者の緊張感の中で、式次第が進みました。岸田嘉一学長の式辞、中島博理事長の祝辞に続いて新入生代表の板野望美さんが入学宣誓を行いました。最後に本学園の日高好一教授(テノール)、芦田田鶴子助教授(ピアノ)による学歌独唱があり、これからの希望あふれる学生生活を予感させるような感動的な式となりました。



(助教 村上 淳)

### —大学生活への希望と期待を胸に—

入学宣誓式の日、私はこれからの4年間への期待と多くの不安を抱いて式に臨みました。最も心配していたことは友人関係でした。そのため会場に集まった新入生を見た時、その不安感がさらに高まってきました。緊張感が高まる中、式は始まりました。学長先生の式辞を聞くにしたがい私は改めて管理栄養士になるんだという意欲が強くなりました。また、先輩の歓迎の辞は、大学生活への不安や緊張感をやわらげてくれました。そして私はこの中国学園大学で、何事にも一生懸命取り組むことを宣誓しました。この瞬間から私の中にあつた不安は、大学生活への希望や期待に変化しました。これからの4年間を充実した悔いの無いものにしていきたくと思っています。

(現代生活学部人間栄養学科1年・板野 望美)



## 工場・民博見学とテーブルマナー研修

私達2年生は、2月6・7日に工場・民博見学とテーブルマナー研修に行きました。手作りの砂糖(和三盆)を製造している岡田製糖所、カロリーメイトを作っている徳島の大家製菓、地震があった北淡町震災記念公園を見学しました。宿泊先の六甲山ホテルでは、フランス料理を食べながら基本的なマナーを習いました。山の上にあるホテルだったので夜景が綺麗でした。二日目は国立民族学博物館へ行き、いろんな国の民族文化にふれました。昼食は神戸の中華街で自由にいろいろな物を食べました。特に印象に残ったことは、地震の被害がそのまま残っていた震災記念公園です。あの一瞬のうちに、たくさんの方が死んでしまったと思うと悲しくなりました。

今回の研修で、いろいろなことを学び、友達ともより仲良くなれて大変有意義な研修になったと思います。

(現代生活学部人間栄養学科2年・三宅麻衣子)



## 新入生研修会

### —研修会に参加して—

4月18・19日に山陽ハイツでの研修会に参加しました。ネイチャーウォーキングでは先輩を先頭に数人に分かれ山陽ハイツの周りを歩きました。その中で先輩が大学生活のことなどを楽しく話してくれました。先輩と触れ合うことができよかったです。またグループ別討議があり、「大学生活への期待」「将来このよ



## 新入生歓迎会

### —大学に後輩を迎えて—

私達2年生は、4月4日に新入生歓迎会(昼食会)を開催しまし

うになりたい」などのテーマを、グループごとに別れて意見をまとめ発表しました。先生や先輩達の協力もあり、どのグループも審査の先生方がビックリするほどのいい作品ができていました。この研修をとおして、たくさんの方を学んだり、先生や先輩、同級生との交流を深めたりし、充実した二日間を送ることができました。この研修で得たものをこれからの大学生活に活かしていきたいと思えます。



(現代生活学部人間栄養学科1年・井上 昌子)

の一端を感じてください。体験授業や進路相談などの準備をしてお待ちしています。当日は、在学生もスタッフとして参加します。本学教員や在学生との楽しい時間をお過ごし下さい。事前の申し込みはいりません。多くの方々の参加をお待ちしています。

オープンキャンパスの日程

6・22 (日)	8・6 (水)	9・21 (日)	10・12 (日)
-------------	------------	-------------	--------------

いずれも 12:30 受け付け開始、13:00 より開催です。

## AO入学制度のお知らせ

### —本年度より新しく導入される入学制度—

中国学園大学のAO入学制度は、将来の夢へ向かってがんばる皆さんを応援する入学制度です。この入学制度は、従来の入学試験と違い、みなさんと私たちの話し合いによる相互理解をベースに、将来を前向きに意欲的に考えているみなさんに入学のチャンスを提供する制度です。詳細はお問い合わせください。

エントリーから合格まで	
エントリー → 面談日の確認連絡 → 面談 →	
出願許可通知 → 出願 → 審査 → 合格通知	

問い合わせ先：電話 (086) 293-1100、FAX (086) 293-3993  
e-mail gakusei2@cjc.ac.jp (本学入試事務室)

## 新任教員紹介

### —林 英生 教授—



先輩である関周司学部長からお誘いを頂き、本年4月から本学へ赴任いたしました。岡山大学医学部を卒業し、暫くは母校へ奉職し、香川医科大学で8年、筑波大学で13年、計33年間の公務教員生活を終え、21年ぶり故郷へ帰ってまいりました。まだ、岡山弁の響くキャンパスが「ここは外国かな?」というような錯覚に陥ることがあります。専門は病原微生物学で、感染症や食中毒などの原因細菌について研究と教育に従事してきました。しかし、微生物とヒトの健康・医療の関係についてはまだまだ解明しなければならない問題が山積みされています。看護師や臨床検査技師の教育研究指導は経験してきましたが、管理栄養士の教育と栄養学の研究は60才の手習いとなります。よく整備された明るいキャンパスで、目に見えない微生物の生態と病気を起こすメカニズムを考えながら、人の健康と食物についての研究と教育に仲間入りさせて頂きます。色々なことが初体験ですので、何卒よろしくご指導下さいますようお願いいたします。

### —森脇 晃義 教授—



ご縁がありまして、この4月から中国学園大学に赴任して参りました。私はこれまで、岡山大学医学部生理学教室で、教育、研究を続けてきました。そこでは生理学の講義、実習の他に、神経系に特有用な機能を研究してきました。最近では、脳に存在するペプチドやホルモンについて、その生理機能、作用機序、合成制御等について解析してきました。そして、体内の水分平衡や抗ストレス作用に重要な役割を果たすバソプレッシンの合成調節に、これまで知られなかった制御機構が存在することを明らかにしました。引き続きその機構についてさらに詳細な研究を進めています。水分は身体の約60%を占め、生命の維持に必須ですので、水代謝を研究対象とするのは、人間栄養学の目的に合致するでしょう。同時に、多方面から中国学園の発展に寄与できればうれしく考えております。

### —西田 典数 助教授—



中国学園と同じ年齢です。吉備小・中学校で中国学園の傍で育ってきました。岡山大学旧第三内科に入局し、これまで主に心臓病、生活習慣病、動脈硬化症等の食生活習慣・喫煙等と深く係わる疾患の診療に携わり、幾つかの病院、大学に勤務してきました。そこでの患者さんや患者さんを支える家族、職員の方々と多くの出会いが私の財産です。入学、転校、転勤、そして新たな事への挑戦は負荷もかかりますが、新たな出会い、創造、感動へのチャンス、始まりです。新入生の皆さん、共にこの学園で大きく成長していきましょう。【循環器専門医・内科認定医】

### 本年度のAO入学制度スケジュール (平成15年)

	面談日	エントリー期間	出願期間	審査日	合格発表
第1回	7/19	7/5~7/14	10/20 ~ 10/30	11/1	11/5
第2回	8/6	7/23~8/1			
第3回	8/23	8/9~8/18			
第4回	9/13	8/30~9/8			
第5回	9/21	9/6~9/16			
第6回	10/12	9/27~10/7			

## 中国学園大学公開セミナー

第6回 村上 淳 助教授 (平成14.11.29.16:30~, 1301教室)

「健康教育・栄養教育の考え方と実践例の紹介」  
管理栄養士が行う栄養指導は、健康保険法の改正、社会保険診療報酬改定などにより対象者が広がり、機会も増え、それに伴い業務上で教育的要素が強く要求されるようになり、より包括的な栄養教育という呼称に変化しました。今回は、まず健康教育・栄養教育の基本的視点を解説し、今までに演者が経験した様々な集団に対する栄養教育の実践例について、いくつかの教育媒体を中心に解説しました。また、排便に関する健康教育について演者が現在までに分析した若干の知見も紹介しました。

第7回 清原 昭子 講師 (平成14.12.20.16:30~, 1301教室)

「食品安全研究の新展開—安全確保システムの構築を目指して—」  
1990年代後半から食品の安全性に関わる事件等が相次ぎ、新たな食品リスクの存在と対応する法や制度の必要性が明らかになりました。このような現状を受け、食品安全研究の新しい動向として、これまでの経過および安全確保システム構築のための研究プロジェクトの概要が報告されました。研究の一端として、食品安全行政をリスクの発生と健康被害を数量的に示すリスクアナリシスの観点から検討し、「食品リスクはゼロであること」の問題点を指摘されました。「食品リスクは必ず残る」という理念をもとに、食品の流れと履歴を把握する仕組みについても紹介されました。(講師・上田由喜子)

第8回 嶋田 義弘 助教授 (平成15.1.20.16:30~, 1301教室)

「有機溶剤の生物学的モニタリング」  
産業保健(労働衛生)の分野では「生物学的モニタリング」という手法が、有害化学物質取り扱い作業者の暴露の程度を評価するために適用されるようになってきました。今回は、トルエン、キシレン、トリクロロエチレン、モノクロロベンゼンについて、生体試料として「尿」を使い、各溶剤の摂取量と尿中への代謝産物の排泄量の関係を明らかにする研究を、ヒトや動物による実験方法また各種測定方法も交えて紹介しました。

## 来て! 見て! 感じて! Our キャンパス

オープンキャンパスを下記の日程で開催いたします。本学受験を考えている皆さん! 一日だけ大学生の気分を味わい、本学の雰囲気